

地域の歴史に対する関心を高める 小学校中学年社会科における地域学習

— 身近な地域の文化財に着目して —

永田 成文¹⁾・林 隆之²⁾・吉崎 誠²⁾・斎藤 隼人²⁾

三重大学大学院の「社会科教育特論演習Ⅱ」では、目標・内容・方法を設定した地域に関する教材を検討し、開発した小単元を実践し、その目標が達成できたのかを検討している。小単元は、小学校中学年社会科の地域学習において、歴史的景観の側面から身近な地域の文化財を活用すれば、児童の地域の歴史に対する関心を高めることは可能であるという歴史学習の導入の視点から検討された。身近な地域の文化財として、栗真小・北立誠小の両校区の史跡である常夜灯と旧伊勢街道を取り上げ、児童は昔の地域の繋がりや伊勢街道の様子を考える。

授業で使用したワークシートの記述から、児童は常夜灯が地域に存在する背景や伊勢街道を媒介とした地域の繋がりを積極的に予想し、学んだことをもとに地域の歴史を追究していこうとする姿勢がみられた。

中学年社会科の地域学習において、歴史的景観の側面から身近な地域の文化財を活用すれば、地域の歴史に対する関心が高まり、歴史学習の導入として位置付けることができる。

キーワード：身近な地域、文化財、常夜灯、伊勢街道、伊勢神宮

I. 小学校中学年社会科地域学習における文化財の扱い

現行の平成10年度版学習指導要領の小学校中学年社会科において、地域に残る文化財から地域について考察していくような地域学習に関する項目は、第3・4学年の内容(5)イ「地域に残る文化財や年中行事」が該当する。この項目では、生活の安定と向上に対する地域の人々の願いを考える手がかりとして、地域に残る文化財や年中行事を調べる対象として挙げている¹⁾。教科書では、人々の願いを考える手がかりとして主に年中行事を取り上げ、文化財を取り上げる場合は、人々が地域で伝えてきた民俗芸能が多く、神社、街道、城、古墳等の地域の歴史的景観である史跡は少ない。このように中学年社会科の地域学習における文化財の扱いは地域の人々の願いを考える手がかりとしての活用に限定されている。

6学年の歴史学習では、昔の暮らしをつかむ手がかりとして地域の歴史的景観である史跡を取り上げて、歴史学習の導入として児童の歴史に対する関心を高めることをねらいとする学習が見られる²⁾。歴史学習の導入では、現在に生きる子どもの視点から過去をとらえたり、現在の中に過去とのつながりを見いだしながら学習を深める必要がある³⁾。小学校中学年社会科の地域学習は、生活体験を重視しながら、観察・調査を介して、児童の社会認識を培う学習活動である¹⁾。生活体験と地域の歴史を結び付ければ、歴史学習の導入は、中学年社会科の地域学習においても可能である。

II. 身近な地域の文化財である常夜灯と旧伊勢街道

開発した歴史学習の導入としての地域学習を実践する地域は、三重県津市の栗真小学校と北立誠小学校の校区である。この両校区は南北に隣接しており、歴史的景観としての文化財である細い道によって結ばれている。旧伊勢街道は、現在では国道23号線として生まれ変わったが、一部は両小学校区に昔ながらの細い道のままで残っている。また、この細い道沿いには街道の存在を示す証拠となる常夜灯が残っている。

両小学校の中学年の児童は、普段からこの常夜灯を目にしたり、旧伊勢街道を歩いている。この二つの文化財について、児童は昔ながらのものであるという漠然とした認識はあるが、それが身近な地域の歴史とどのような関係があるのかについてはあまり意識していない。

児童に昔として考えさせる江戸時代は、徳川幕府によって日本全国の統治がなされ、各地に設けられていた関所が廃止されることで一般庶民が全国の街道を比較的自由に往来することが可能になった。伊勢街道は、日永の追分から伊勢神宮へと繋がる街道である。江戸時代に全国各地が街道で結ばれることで、多くの人々が伊勢街道を通ってお伊勢参りをするようになった。お伊勢参りの中でも笠をかぶり柄杓を持って伊勢神宮を目指すおかげ参り³⁾が定期的で大流行した。このように、伊勢神宮には、おかげ参りを中心として全国各地から様々な人々が集まってきた。江戸時代に伊勢神宮へ続く主要な道として整備がなされた伊勢街道は、時代は変わっても伊勢神宮への参拝・観光の道として人々を安全に運ぶ

¹⁾ 三重大学教育学部社会科教育講座

²⁾ 三重大学大学院教育学研究科社会科教育専修

役割を担っている。身近な地域に現存する旧伊勢街道を取り上げることで、当時の伊勢街道の様子や三重県内の他地域を身近に感じることができ、全国との繋がりをつかむことができる。

このように常夜灯や旧伊勢街道という身近な地域の文化財は、中学年の児童にとって生活の中で地域の歴史を意識できる格好の地域教材である。

Ⅲ. 単元「昔ながらの細い道について考えよう」

街道を教材とした実践は、街道を歩いたり、街道について調べて発表するなど、主に総合的な学習の時間で実施されている。長崎街道を教材とした実践では⁶⁾、児童に旧宿場町であった校区の歴史を調べさせ、地域独特の生活や文化をつかませている。このように、街道と関わる具体的な活動や体験から地域を学んでいこうとする学習が多い。本単元では、児童の普段の生活と関わりが深い常夜灯や旧伊勢街道という地域の文化財を取り上げ、旧伊勢街道を媒介として、身近な地域のみではなく、県内の他地域、全国との繋がりをつかませる。

社会科教育における地域に根ざす地域学習の視点として、次の4点がある⁷⁾。

- ① 地域の事実には、他の地域の事象と密接に結びついている側面がある。
- ② 地域の事象には、様々な共通性がある。
- ③ 地域の事象には、その地域だけに見られる特殊性がある。
- ④ 地域の事象には、矛盾があり、変化、発展がみられる。

本単元においては、①は地域にある街道は他地域と結びついていること、②は地域にある常夜灯は旧街道沿いにあること、③は地域にある街道は伊勢神宮参拝のために日本全国の人々が集まる特別な街道であること、④は地域にある常夜灯は旧街道から少し離れていたり形が異なっていることを学習することで対応している。

小単元は、栗真小学校では3・4学年合同で2006年の6月に2時間連続と1時間の計3時間で、北立誠小学校では3学年で2006年の11月に2時間連続で実施した。小単元の構成は次の通りである（3時間目は栗真小のみ）。

- 常夜灯はどんなところにある？・・・1時間
- 伊勢街道はどんな様子だったの？・・・1時間
- なぜ昔の人々は伊勢神宮をめざしたの？・・・1時間

第1時は、細い道と常夜灯の分布を確認し、身近な地域に見られる文化財を点的側面からとらえている。第2時は、昔の伊勢街道の様子をイメージさせ、身近な地域と他地域を結ぶ線的側面からとらえている。第3時は、全国からのおかげ参りを事例として、伊勢街道が全国の

道と繋がっているという面的側面からとらえている。

単元の内容面では、常夜灯の夜道に明かりをとらず役割や伊勢街道の人々を安全に正確に楽しく伊勢神宮に導くという役割、旅人の様子やおかげ参りの様子を取り上げることは、児童の地域の歴史に対する関心や歴史そのものへの関心を高めていくと考える。また、人々は伊勢神宮に行くことによって、各地域の人々と触れ、自分の住む土地の情報を交換しあったという参拝・観光以外の目的があったという事実は児童の関心を高めていくと考える。

単元の方法面では、身近な地域の文化財である常夜灯（写真1・2参照）、旧伊勢街道（写真3・4参照）を地域教材として活用し、これらの文化財と身近な地域の関わりをとらえ、伊勢街道を媒介として身近な地域と他地域、日本全国というように視野を広げていく学習過程をくむ。このことにより、児童が歴史に対する自分の考えを持ったり、新たな疑問を持てるようにする。

単元の学習過程を表したのが表1、ワークシートの記述を表したものが表2である。



写真1 栗真の常夜灯



写真2 江戸橋の常夜灯



写真3 栗真小前の道



写真4 江戸橋付近の道

地域の歴史に対する関心を高める小学校中学年社会科における地域学習

表1 学習過程

第1時「常夜燈はどんなところにある？」

- ・地域の文化財である常夜燈の立地や、学校近くを通っている細い道に興味を持つ。【関心・意欲・態度】
- ・常夜燈の役割をつかみ、常夜燈の分布は昔の街道があったところを表していることに気付く。【知識・理解】

	学習項目	主な発問や指示	学習活動	指導上の留意点	資料	評価
身近な地域に見られる文化財(点の視点)	小学校前(㊤近く)の道	○この道はどこの道か知っていますか。	○どこの道かを発表する。	○学校前(㊤近く)の写真を提示する。児童は「栗真小学校の前の道だ(㊤江戸橋駅の近くの道だ)」等と答えるだろう。	資1: 小学校前(㊤近く)の道の写真	関心・意欲・態度 どこの道かを考え、発表しようとしたか。
	小学校近くの常夜燈	○これを見たことがありますか。	○見たことがあるかを発表する。	○学校近くの常夜燈の写真を提示する。児童は「ある、ない」と答えるだろう。あると答えた児童にどこで見たのか場所を確認する。	資2: 二つの常夜燈の写真(㊤江戸橋駅近くの常夜燈の写真のみ)	関心・意欲・態度 身近な地域の文化財である常夜燈に関する質問に答えようとしたか。
		㊤二つの写真の同じところと違うところはどこだろう。	㊤常夜燈の同じところと違うところを発表する。	㊤江戸橋の常夜燈の写真を提示する。児童に同じところは石づくり、違うところは空洞のあるなし等に気付かせる。		
		○学校近くの常夜燈の場所を見ましょう。	○常夜燈の場所の説明を聞く。	○小学校を中心とした地図を用いて、常夜燈の場所を示し、小学校付近に常夜燈がたくさんあることを意識させる。	資3: 小学校付近の常夜燈の位置の地図	
	㊤常夜燈や江戸橋前の道はいつ頃できたのでしょうか。	㊤いつ頃からできたのかを聞く。	㊤古くからあるのかと問いかけ、200年以上前の江戸時代からあることを説明する。			
	細い道と常夜燈	○「どうして小学校前(㊤近く)の道に常夜燈があるのか？」 ○小学校近くの常夜燈と三重県内の常夜燈のあるところをみて気づくことはありませんか。 ○常夜燈と道はどのような関係がありますか。	○小学校前(㊤近く)の道に常夜燈がある理由を考え、発表する。 ○常夜燈のあるところをみて気づいたことを発表する。 ○常夜燈と道との関係を考える。	○考えをワークシートに記入させ、発表させる。児童は「昔の道が通っていたから」「人が多く集まるような場所だから」「目印が必要な場所だから」等と答えるだろう。 ○三重県内の常夜燈の図を提示し、常夜燈の分布に着目させる。児童は「常夜燈があるところは線になっている」「道のようなようだ」等と答えるだろう。 ○常夜燈は道のそばにあることを想起させ、常夜燈を繋げれば道になることを説明する。	シート1: どうして小学校前(㊤近く)の道に常夜燈があるのか？ 資4: 常夜燈の位置の図(伊勢街道)	知識・理解 常夜燈の役割と位置を把握し、常夜燈の分布が道を表していることを理解できたか。
	どこへ繋がる道	○「学校前(㊤近く)の道はどこに繋がるかワークシートに書いてきましょう(㊤書きましょう)。」	○どこへ繋がる道をワークシートに書く。	○学校前(㊤近く)の細い道であることを確認し、どこへ繋がっているのかをワークシートに書いてくるように指示する(㊤書かせる)。	シート2: 「学校前(㊤近く)の道はどこに繋がっているか？」	関心・意欲・態度 学校前の道がどこへ繋がるか調べよう(㊤予想しよう)としたか。

第2時「伊勢街道はどんな様子だったの？」

- ・伊勢街道を媒介とした地域の繋がりが伊勢神宮をめざした人々の様子に興味を持つ。【関心・意欲・態度】
- ・伊勢街道が整備されたため、人々は安全に正確に楽しんで伊勢神宮へ行けたことを理解する。【知識・理解】

	学習項目	主な発問や指示	学習活動	指導上の留意点	資料	評価
身近な地域と他地域を結ぶ伊勢街道	伊勢神宮へ繋がる道	○「学校前(㊤近く)の道はどこに繋がっているでしょうか？」 ○終点の絵を見ましょう。 ○学校前(㊤近く)の道はどこに繋がっていましたか。	○考えたことや調べたことを発表する。 ○終点を絵(㊤や写真)から読み取る。 ○学校前(㊤や江戸橋)の道の終点を確認する。	○道の終点に着目させて発表させる。児童は調査をもとに伊勢(㊤予想をもとに伊勢、四日市、松阪等)と答えるだろう。 ○昔の伊勢神宮の様子の絵(㊤や今の写真)を見せ、鳥居や人々の多さから伊勢神宮を導く。 ○伊勢神宮に繋がることから学校前(㊤近く)の細い道は伊勢街道であったことを伝える。	資5: 昔の伊勢神宮の絵(㊤や今の写真)	知識・理解 道の終点が、伊勢神宮であることから学校前(㊤近く)の道が伊勢街道であったことを理解できたか。
	旅する人の様子や伊勢街道の施設	○「旅をする人々の持ち物や服装はどのようなものだったのだろうか？」	○旅をする人々の持ち物や服装を予想する。	○江戸時代は歩いて旅したことを確認し、ワークシートに書かせる。児童は「笠、身軽な格好」等と答えるだろう。	シート3: 「旅をする人々の持ち物・服装は？」	知識・理解 歩きの旅の人々の様子や歩きの旅に必要な施設が整備

(線の視点)		○歩きの旅の様子を描いた絵や写真で確認してみましょう。 ◎「歩いて旅する人のために必要な施設(建物)は何だろう?」	○絵や写真から持ち物や服装をとらえる。 ○歩きの旅に何が必要かを考える。	○服装、宿帳、弁当箱、印籠等を説明し、歩きの旅の様子イメージをふくらませる。 ○伊勢街道の出発点の日永から終点の伊勢神宮まで歩いて2日かかることから、必要な施設をワークシートに書かせる。児童は「ホテル」「休憩所」「常夜灯」等と答えるだろう。	資6:旅人の服装と持ち物の絵 シート4:「どのような施設が必要か」	されたことを理解できたか。
		○昔の伊勢街道の施設の絵を見て確認してみましょう。	○二枚の絵を見て施設をとらえる。	○旅籠と茶屋が歩く旅を楽にさせてくれたことを説明し、小学校区(栗真・北立誠)にも茶屋があったことを補足する。	資7:旅籠と茶屋の絵	
	伊勢街道の行程	○伊勢街道を旅してみましょう。 ○出発点の日永から見ていきましょう。 ○津に着きました。 ○松阪に着きました。 ○終点の伊勢神宮に着きました。	○伊勢街道を旅しようとする。 ○昔と今の日永の様子を見る。 ○昔と今の津の様子を見る。 ○昔と今の松阪の様子を見る。 ○昔と今の伊勢神宮の様子をみる。	○伊勢街道の要所である日永・津・松阪の宿場を取り上げる。 ○今も鳥居があることに着目させ、伊勢街道と東海道の分岐点であることをつかませる。 ○昔も橋があることに着目させ、江戸橋は伊勢街道の橋であったことをつかませる。 ○松阪にも橋があることに着目させ、名産「へんば餅」のエピソードを話す。 ○伊勢神宮の昔の今を比較させ、昔も今も変わらずに賑わっていることをつかませる。	資8:日永の昔と今の様子 資9:津の昔と今の様子 資10:松阪の昔と今の様子 資11:神宮の昔と今の様子	【関心・意欲・態度】 伊勢街道の行程や宿場の様子を今と昔で比較しようとしたか。
	伊勢街道の役割	○伊勢街道の宿場町を旅して、旅人は無事に伊勢神宮に行くことができると思いますか。	○伊勢神宮へ無事に行くことができるかを考える。	○伊勢街道に様々な施設が整備されたことにより、旅人は安全に、正確に、楽しみながら伊勢神宮に到着することができたこと(◎や伊勢街道以外にも伊勢に通じる道があったこと)をおさえる。		【知識・理解】 伊勢街道の整備により人々が安全に正確に楽しんで旅ができたことがつかめたか。
もっと勉強したいこと	④人々が伊勢神宮を目指した理由を聞きましょう。 ④「もっと勉強したいことを書きましょう。」	④人々が伊勢神宮を目指した理由を聞く。 ④もっと勉強したいことを書く。	④全国の人々が集まった目的は観光や参拝の他に情報交換があったことを説明する。 ④二時間の学習を踏まえ、ワークシートに書かせる。	④シート5:「もっと勉強したいこと」	【関心・意欲・態度】 文化財をさらに調べようと意欲が高まったか。	

第3時「なぜ昔の人々は伊勢神宮をめざしたの?」(栗真小学校のみ)

- ・伊勢国と全国との繋がりがや伊勢神宮を目指した人々の気持ちを考えようとする。【関心・意欲・態度】
- ・昔の人々が伊勢神宮をめざした理由は、参拝・観光のほか情報交換があったことをつかむ。【理解・知識】

	内容	主な発問や指示	学習活動	指導上の留意点	資料	評価
(面の視点)	街道を通じた全国からの	○伊勢国は日本の色々な地域とつながっていたと思いますか。 ○昔の地図を見て確かめてみましょう。	○伊勢国は日本全国と繋がっていたかを考える。 ○昔の地図を見て確かめる。	○江戸時代に伊勢国と呼ばれていたことを確認し、日本全国の旅人が街道を通して伊勢国にきたことを確認する。 ○江戸を事例として、街道で全国と伊勢国が繋がっていることをつかませる。	資12:日本の街道	【関心・意欲・態度】 伊勢街道と全国の街道を通して伊勢国と全国が繋がっていることに興味を持つことができたか。
	一生に一度はおかげ参りを	○伊勢神宮にはどのような人が集まったのでしょうか。 ○江戸(東京)からはどれくらいの時間とお金がかかったと思いますか。 ○これだけの日数とお金かけ、全国からどれくらいの人が伊勢神宮に集まったのだろう。 ○「一生に一度はおかげ参りを」の意味を考えましょう。	○どのような人が伊勢神宮に来たのかを予想する。 ○江戸からの日数と費用を予想する。 ○どれくらい集まったかを予想し、確認する。 ○人々はどのような気持ちで伊勢神宮を目指した	○誰でも伊勢神宮に来ることができたのかという視点から考えさせ、庶民(農民・町民)が多かったことを説明する。 ○徒歩を意識させ、江戸からの日数と費用を予想させる。日数・金(14日・5両(15万円))を提示し、当時5両を集めるのは大変だったことを補足する。 ○昔と今の伊勢神宮への参拝客数を提示し、人口比から見れば昔は大変な人数が伊勢神宮に集まったことを説明する。 ○一生に一度に着目させ、伊勢神宮参拝が人生の一大イベントであったことをつかませる。	資13:今と昔の参拝客数	【関心・意欲・態度】 伊勢神宮を目指した人はどのような人でどのような気持ちであったのかを考えようとしたか。

地域の歴史に対する関心を高める小学校中学年社会科における地域学習

		のかを考える。	村でお金を集め、代表者が代参していたことを補足する。		
伊勢神宮を目指す理由	◎「どうして多くの人は伊勢神宮を目指したのでしょうか？」 ○全国の人びとが集まるとどのようなことができるだろうか。 ○他地域の人々同士はどんなことを情報交換したと思いますか。	○多くの人が伊勢神宮を目指した理由を考え、発表する。 ○全国から集まった人々は何を始めるのかを考える。 ○人々の話の内容を予想する。	○お金と時間をかけても伊勢神宮を目指す理由をワークシートに書かせる。児童は「楽しかったから」「お参りしたかったから」等と答えるだろう。 ○伊勢神宮では他地域の人々と交流できることに着目させ、通信手段が人間であったこの時代に最大の情報交換の場であったことを説明する。 ○人々が知りたいこと、話したいという視点から、暮らしや文化を導き出す。	シート5: 「どうして多くの人は伊勢神宮を目指したのか」	知識・理解 多くの人は単に参拝するだけでなく、情報交換のために伊勢神宮を目指したことを理解できたか。
もっと勉強したいこと	◎「もっと勉強してみたいことはどんなことですか？」	○もっと勉強したいことを書く。	○三時間で、常夜灯、伊勢街道、伊勢神宮の様子を勉強したことを踏まえ、ワークシートに書かせる。	シート6: 「もっと勉強したいこと」	関心・意欲・態度 文化財をさらに調べようと意欲が高まったか。

※林・吉崎（栗真地区）・斎藤（北立誠地区）が作成した指導案に、内容を変えない範囲で永田が加筆修正
 ◎は栗真小学校（3時間の実践）のみ、⑤は北立誠小学校（2時間の実践）のみで行った活動を表している。



資3：小学校付近の常夜灯の位置



資4：常夜灯の位置(伊勢街道)



資8：日永の様子(伊勢街道と東海道の分岐)

表2 ワークシートの記述

1：どうして小学校前(◎近く)の道に常夜灯があるのか？(複数回答の場合は一番目の記述を抜粋) 左側：◎3学年21名、4学年18名、計39名（{ } は3学年、[] は4学年） 右側：⑤3学年=36名			
○人々（特に子ども）のおまもり	… {5} [5] = (10)	○あかり（ろうそく）で道をてらす	… (27)
○昼（学校帰り）の道しるべ（目印）	… {6} [3] = (9)	○車や自転車のために道をてらす	… (5)
○あかり（ろうそく）で道をてらす	… {3} [6] = (9)	○夜の道しるべ（目印）	… (4)
○夜の道しるべ（目印）	… {3} [2] = (5)		
○昔の道のそば	… {0} [2] = (2)		
○魔除け	… {1} [0] = (1)		
○無回答・感想	… {3} [0] = (3)		
2：学校前(◎近く)の道はどこに繋がっているか？(複数回答の場合は一番目の記述を抜粋) 左側：◎3学年21名、4学年18名、計39名（{ } は3学年、[] は4学年） 右側：⑤3学年=36名			
○国道23号線（関線）	… {6} [2] = (8)	○伊勢、松阪、鈴鹿、四日市、桑名等	… (19)
○伊勢神宮	… {0} [7] = (7)	○四日市（桑名・松阪）から伊勢（鳥羽）	… (6)
○伊勢、松阪、鈴鹿、四日市、桑名等	… {4} [2] = (6)	○伊勢神宮	… (5)
○四日市（桑名・松阪）から伊勢（鳥羽）	… {5} [0] = (5)	○その他（山・海・町・いなか等）・無回答	… (7)
○日本中	… {0} [1] = (1)		
○その他（山・海・学校等）・無回答	… {6} [6] = (12)		
6 (◎5)：もっと勉強したいこと(複数回答、記述内容から項目ごとにまとめている) 左側：◎3学年20名、4学年19名、計39名（{ } は3学年、[] は4学年） 右側：⑤3学年=34名			
《昔の伊勢神宮の様子について》	… {5} [3] = (8)	《昔の伊勢神宮の様子について》	… (11)
《伊勢神宮（神宮）について》	… {3} [5] = (8)	《伊勢神宮（神宮）について》	… (10)
《昔の伊勢街道の様子について》	… {2} [6] = (8)	《昔の伊勢街道の様子について》	… (9)
《おかげ参りにについて》	… {2} [4] = (6)	《街道について》	… (7)
《街道について》	… {2} [3] = (5)	《昔の生活について》	… (5)
《昔の生活について》	… {1} [1] = (2)	《常夜灯について》	… (2)
《常夜灯について》	… {0} [1] = (1)	《その他》	… (4)
《その他》	… {2} [0] = (2)		

※太字は分析の際に着目する記述や項目

IV. 文化財の活用による地域の歴史に対する関心の高まり

地域の文化財の活用による地域の歴史に対する関心の高まりについて、ワークシートの記述から次の3点を分析する。

- 身近な地域の文化財に対する関心の高まり
- 身近な地域と他地域との繋がりに対する関心の高まり
- 地域の歴史に対する関心の高まり

対象とする問いは、常夜灯の役割と位置との関わりを考えさせるワークシート1、身近な地域の昔ながらの細い道と他地域との繋がりを予想させるワークシート2、地域の文化財の学習を通して追究を促すワークシート6(㊸5)とする。それぞれ、3学年と4学年で違いが見られるのか(栗真小)、地域による違いが見られるのか(栗真小と北立誠小)もみていく。

ワークシート1の記述から、栗真小学校4学年の「昔の道のそば」以外は、両小学校の児童とも常夜灯の役割と位置を関連づけることができていない。常夜灯の役割では、栗真小学校では児童の普段の生活に関わる視点から「通学路のお守りや道しるべ」という記述が多い。北立誠小学校では、「昔の夜に明かりをとます」という記述が際だって多く、昔は電気がなかったので、暗い道には常夜灯に明かりをとます必要があったことを強く意識している。これは、北立誠小学校の児童は通学や校区たんけん等で江戸橋の常夜灯と関わる機会が多く、栗真の常夜灯は目立ちにくく、栗真小学校の児童の日常生活との関わりが弱いためだと考えられる。以上のことから、児童の日常生活に関わりが深ければ深いほど地域の文化財に対する関心が高まるといえる。

ワークシート2の記述から、栗真小学校では昔ながらの細い道がどこで終わるのかという視点から、舗装された大きな道路である「国道23号線や県道関線」と記述している児童が多い。この記述は北立誠小学校の児童には見られないため、それだけ栗真小学校の児童にとって学校前の道が昔ながらの細い道を強く認識していると考えられる。また、中学年(特に3学年)の段階では、過去と現在を繋げて考察することが難しいことを示している。栗真小学校の3学年では、繋がり視点から都市や伊勢街道を意識した複数の都市を記述し、4学年では目的地という視点から伊勢神宮という記述が見られる。北立誠小学校では繋がり、目的地の両方の視点からの記述が見られる。以上のことから、身近な道との繋がりを考察させることで、他地域を意識すると同時に他地域との繋がりについての関心が高まるといえる。

ワークシート6(㊸5)の記述から、両小学校の児童は、県内の地域にある文化財である常夜灯や伊勢街道や伊勢神宮について、昔の暮らしを強く意識して追究したいと

記述している児童が多い。栗真小学校では3時間目におかげ参りを取り上げたため「おかげ参り」の項目がある。北立誠小学校では、「昔の伊勢神宮の様子について」の項目の中に、栗真小学校の3時間目に取り上げた学習内容である、伊勢神宮にはどんな人が、何のために、どこから、何人くらい来ていたのかという記述が含まれている。このことは、学んだことから地域の歴史に対する追究が始まっている証拠である。以上から、身近な地域の文化財を活用して他地域との繋がりや昔の人々の様子をイメージさせることにより地域の歴史に対する関心が高まるといえる。

中学年の児童に、身近な地域の文化財に着目させ、昔の暮らしについて追求させていけば、地域の歴史に対する関心を高めることができる。小学校中学年社会科の地域学習において、地域の人々の願いをとらえるためのみではなく、地域の歴史に対する関心を高めるために地域の文化財を活用し、歴史学習の導入として設定することが必要であると考えられる。

註

- 1) 文部省『小学校学習指導要領解説社会編』1999, p. 43
- 2) 多摩川の左岸の台地に点在する古墳群を対象とし児童は、現代と古代との景観の違いや人々の暮らしの変貌ぶりを考えている。小林宏巳『身近な地域の文化財』の学習 朝倉隆太郎編『現代社会科教育実践講座第6巻—地域学習と産業学習』現代社会科教育実践講座刊行会, 1991, pp. 152 - 157
- 3) 前掲2, p. 154
- 4) 中川浩一「社会科学習における「地域」の取り扱い」朝倉隆太郎編『現代社会科教育実践講座第6巻—地域学習と産業学習』現代社会科教育実践講座刊行会, 1991, p. 21
- 5) おかげ参りは本来は、民衆信仰の歴史的な変化を基盤として発生した宗教運動であるが、対象が中学年児童であることを考慮して、全国的な規模の大巡礼に発達したお伊勢参りとして扱う。藤谷俊雄『「おかげまわり」と「ええじゃないか」』岩波書店, 1993, p. 32
- 6) 総合的な学習の時間の実践例として、校区内に旧長崎街道が通っていた、福岡県、佐賀県、長崎県の小中学校の実践例が紹介されている。
<http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/private/fukuda/nkaidou/sougou/top.html>
- 7) 名雪清治・藤岡信勝『社会科で「地域」を教える』明治図書, 1989, pp. 28 - 29